

天国へいった大切な家族へ

父さん、母さんへ

桜の季節も終わったね。会えなくなって2年も過ぎたけど、どうしてるかな？

先週、娘の3歳の誕生日だったよ。上手に「Happyバースディ」を歌ってケーキのロウソクを消して、イチゴにかぶりついてたよ。見てくれた？



娘の誕生日が来るたびに父さんと母さんと高田で過ごした3ヶ月半が思い出されます。あんなに長く過ごしたのは18年ぶり。一緒にご飯を食べて、大きなお腹で町中歩いて、公園の桜をあびて、のんびりと平和に過ごした私の人生最後の春だったよ。

2010年7月11日。高田を発った日。あれが父さんと母さんの元気な姿を見る最後になるなんて夢にも思わなかった。私の知る高田の最後だとも。これからもっと親孝行したかったんだ。一緒にしたいことや話したいことがたくさんあった。好き勝手に生きてきた私が結婚して、親になって、素直になれるチャンスができてきた矢先だったのに何もできないまま。

「自分を大切に」「子どもと笑って」。。。それが孝行だと言われることもあるけど。それでもやっぱり元気に生きてる父さんと母さんに伝えたいこと、見せたいもの、行きたいところがあったの。叶えられない現実になってしまったけど、この気持ちはどうしても消えないんだ。父さんと母さんに届いているかな？届いているといいんだけど。

娘は朝の連ドラとゴルフを見るのが好きだよ。血は争えないね。二人にそっくり。ね、そうでしょ。そっちらから見えて笑ってる姿が目につくよ。

娘は「TじいじとSばあちゃんはお月様になっちゃったのね〜」って話すよ。今まで通り遠くても、大きく見守っていてくれるとうれしいな。

(陸前高田市まるさん)

子ども夢ハウスオープン

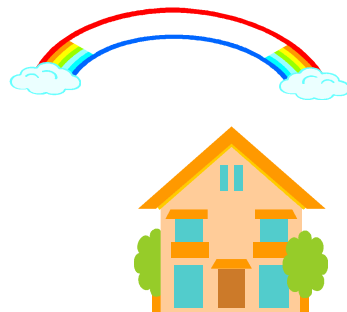
東日本大震災で被災した岩手県大槌町で今年4月、子どもたちの自由な遊び場「子ども夢ハウスおおつち」がオープンしました。津波で家族をなくした子どもたちには、夜眠れなかったり、大切な人のことを突然思い出して苦しくなったりしている子どもいます。木造2階建ての空き家を利用した夢ハウスで、外で思いっきり遊んだり、動物とふれあったりと、子どもたちは思い思いに過ごしています。話したくなった時、泣きたくなった時、経験豊富なスタッフが受け止めてくれます。運営は、北上市の復元納棺師笹原留似子さんと、山口県内の高齢者通所リハビリ施設などを運営する社会福祉法人「夢のみずうみ村」。同法人理事長の藤原茂さんはNHKの番組「プロフェッショナル」で紹介され、施設は全国から視察が相次いでいます。2人は「寂しくなったら、いつでも遊びに来てほしい」と話しています。

寄付金案内

ゆうちょ
口座番号 01300-4-102234
口座名称 夢のみずうみ村
(漢字) 夢ハウス おおつち基金
口座名称 ユメノミズウミムラ
(カナ) ユメハウス オオツチ基金

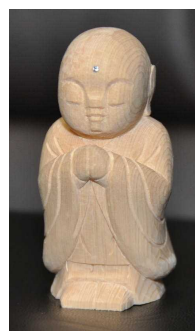
ゆうちょ銀行

支店名 一三九店
(イチサンキュウテン)
預金種目 当座
口座番号 0102234
口座名称 夢のみずうみ村
夢ハウス おおつち基金



子ども夢ハウスおおつち

〒028-1105
岩手県上閉伊郡大槌町
安渡2-10-16
(旧安渡小そば)



縁を結ぶ幸福地蔵

今回は東京都にお住まいの仏師の増山白舟さんを紹介いたします。増山さんは、東北の人たちのために何かをしたいという思いから手作りした地蔵を販売し義援金として寄付する活動を続けてきました。今回、増山さんが手作りした思いのこもった幸福地蔵をほしい方にプレゼントできることとなりました。幸福地蔵は手のひらサイズの温もりが伝わってくる木彫りの地蔵です。増山さんは幸福地蔵をもらって頂ける方と縁を結びたいと言います。みなさんも、幸福地蔵を手にとってみてはいかがでしょうか。増山さんのHPです。

<http://www.mishoan.jp/>

(記者 高2 山口大樹)



花っこいっぱい

6月初旬、お墓参りをおかねて陸前高田に行ってきました。2ヶ月ぶりに見た街の中に、シロツメクサやアカツメクサが一面満開に咲き乱れていました。白、ピンク、緑のふかふかな絨毯のようでした。強い甘いにおいに衝撃を受けました。

たくさん人たちが生活していた建物がなくなり、すっかり更地となった故郷。雑草がはびこるように生き生きと咲き、見慣れた光景はすっかり変わってしまいました。

車で走っていると、「あれ、どこを走ってるんだ。」と今までは感じたことのない感覚になり、とても悲しく、同時にあせりを感じました。

この日は、自宅跡地に花を植えました。亡くなった母は花が大好きでした。変わっていく街並みに抵抗したくて、いつまでも亡くなった人たちを感じていたくて、その一心でした。5歳と3歳の子どもたちは、暑い日差しの中、じいちゃんが刈ってくれた雑草を両腕いっぱいに抱えて捨てていました。5歳の娘は、必死になって硬い地面に穴を掘り、花の苗を植えました。お花がきれいに咲いてほしいです。その光景を子どもたちといっしょに眺めるのが私のささやかな今の願いです。きっと亡くなった母も隣でにこにこ眺めてくれるだろうと思います。

(陸前高田市出身 靴屋のゆきのちゃん)

編集後記

「いのち新聞」へのお手紙や活動資金のご寄付、ありがとうございました。ようやく第2号の発行となりました。

お問い合わせは、

〒024-0024 岩手県北上市中野町2丁目28-23

株式会社 桜内 「いのち」新聞編集部係

お電話での問い合わせはご容赦願います。

